

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)スラリーの固化有無確認の状況に関する面談

1. 日時：令和5年2月21日(火) 15時00分～16時20分

2. 場所：原子力規制庁6階会議室

3. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

正岡企画調査官、松田室長補佐、佐藤室長補佐、横山係長、塩唐松係長

吉田技術参与(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力規制事務所

高松原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当4名(テレビ会議システムによる出席)

4. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、2023年2月9日に実施した高性能容器(以下「HIC」という。)スラリー固化有無の2回目調査結果に関して、資料に基づき、以下の説明があった。
 - スラリー固化有無確認のための調査概要
 - 調査手順
 - 調査結果
 - HIC内観察の結果
 - 調査結果のまとめと今後の予定
 - 作業時のダスト濃度
 - 作業時の被ばく
- 東京電力から、2023年度におけるスラリー移替対象である57基のHICについて、資料に基づき、説明があった。
- 東京電力から、多核種除去設備(以下「ALPS」という。)で発生する廃棄物について、資料に基づき、以下の説明があった。
 - ALPSの運転に伴い、前処理系統に付着する炭酸塩スラリー及び鉄共沈スラリーについて、詰り解消のために酸溶液で洗浄しており、その洗浄液を充填したHICが約1,150基存在する。
 - このHIC内の酸溶液についても高線量HICの処理後に脱水処理を開始することを予定しているが、酸性溶液を中和処理する必要もあり、現在中和処理方法を検討中。
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、東京電力に対し以下のコメントを行った。
 - 流動性の有無の確認については、想定しているスラリー移送の具体的なイメージを示すとともに、次回の流動性確認結果を説明すること。
 - 沈殿しているスラリーの深度確認について、追加での設備や作業は要さないものの、現状作業を工夫の上、現状よりも確度のある情報を示すこと。
 - 作業に際しては、引き続き安全に十分留意の上、作業を進めること。

- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. 資料

- HIC スラリーの固化有無確認の状況について（2基目）

以上